本大学看護学生の援助規範意識

入江多津子・佐藤みつ子
了徳寺大学・健康科学部看護学科

要旨

【目的】本研究は，看護学生の援助規範意識を明らかにし，その結果を学生指導に役立てることである．【方法】調査内容は，箱井等の援助規範意識尺度を用いて，本大学看護学生375名に無記名質問紙法により調査を行った．期間は2021年9月～11月．分析方法は「援助規範意識」の基本統計，因子分析，学年，性別による重回帰分析を実施した．【倫理的配慮】倫理審査委員会の承認後実施した．【結果】本学生の援助規範意識について因子分析の結果，5因子が抽出され第1因子「義理人情遵守規範意識」，第2因子「自己利益優先規範意識」，第3因子「他者利益優先規範意識」，第４因子「社会正義規範意識」，第５因子「社会的責任規範意識」と命名した．【考察・結論】第１因子に義理・人情味のある様相が明らかになった．また，第１因子と第４因子の相関があり，このことから，弱い立場の人を守ろうとする社会正義の様子がうかがえ，本大学看護学生の特徴であることが分かった．

キーワード：援助規範意識　因子分析　学年差

Normative attitudes towards helping among nursing students at this university

Tazuko Irie, Mitsuko Sato
Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University

Abstract

Objectives The aims of this study were to ascertain normative attitudes towards helping among nursing students and to use those findings to help guide students. **Methods** Hakoi & Takagi's Normative Attitudes Towards Helping Scale was used to anonymously survey 375 students in nursing at this university. The study period was from September-November 2021. Basic statistics on "normative attitudes towards helping" were collected, a factor analysis was performed, and regression analysis was performed by year in school and sex. **Ethical considerations** This study was conducted with the approval of the ethical review board. **Results** A factor analysis of students' normative attitudes towards helping was performed, and 5 factors were identified. Factor 1 was designated Normative attitudes towards moral obligations and humanity, factor was designated Normative attitudes towards prioritizing self-interest, factor 3 was designated Normative attitudes towards prioritizing the interests of others, factor 4 was designated Normative attitudes towards social justice, and factor 5 was designated Normative attitudes towards social responsibility. **Discussion & Conclusion** Factor 1 revealed aspects of moral obligations and humanity. In addition, factor 1 and factor 4 were correlated, so social justice, i.e., seeking to protect the vulnerable, was evident. Results revealed that social justice was an aspect of students' attitudes towards helping.

Keywords: normative attitudes towards helping, factor analysis, differences by year in school

本研究の背景

時代の進展とともに，人の生き方は変わってくる．それに伴い，対人援助職といわれる人々の価値観も変わってくることは否めない．看護師は対人援助を核とし，知識・技術に支えられた看護を提供している．誰もが認める対人援助職である．しかし，最初から対人援助職にふさわしい価値観を持っているわけではない．また，対人援助職にふさわしいという考え方は，価値観の多様化を受容する今の時代は決して受け入れられるものでもない．勿論，看護の職業観として，看護師自身もこうあらねばならないという一定の価値観や援助の指針を持っているわけではない．看護師は多くの患者の人生を共に歩くことを通して，対人関係の失敗や成功を積み重ね，その援助する規範が培われたものと推察される．ここで，看護師を目指す看護学生は少なくとも人の援助をしようという目的で入学する学生が殆んどであり，未来の看護師を目指した学生である．

そのような学生たちが現在，どのような援助規範意識を持っているのか，成長とともに学年で変化するものなのか，について調査することは重要なことである．

今回は本学の看護学生（以下看護学生と称す）のその行動の指針となる援助規範意識を調べることにより学年で違いがあるのか，について調査を行い，出された結果の良し悪しは別として，その実態を把握することは指導する上で，重要な基礎資料の一つになれば幸いと考え，調査に臨んだ．また，援助規範が看護学生にどのような特徴を持っていることは，学生指導上重要なことであり，出された結果に配慮して指導することが求められよう．今回は本大学看護学科の学生のみに対象を絞り，学年の変化について調査を行った．

Ⅰ　研究目的

人の行動の指針となる援助規範意識について，看護学生において学年の差異及び捉え方の違いがあるのかについて明らかにし，学生指導上の示唆を得ることを目的とする．

Ⅱ　研究方法

１．用語の定義

１）援助規範意識：箱井・高木[1)]によって作成され，信頼性・妥当性の検証をされている援助規範意識尺度を用いた．29項目からなる尺度であり，４つの下位因子で構成され、返済規範意識，自己犠牲規範意識，交換規範意識，弱者救済規範意識からなる．項目は表2に記載する．測定は５件法であり，得点が高いほどその特徴を示している．柴田[2)]は，「返済規範意識」は，他者の援助や好意に対して報いるべきであるといった規範意識で，「自己犠牲規範意識」は，自分のことは後回しにしても他者を助けるべきであるといった規範意識である．「交換規範意識」は援助に見返りを期待し，自分に有利になるような援助なら行うべきであるといった規範意識で，「弱者救済規範意識」は，自分より弱い立場の人が困っているのなら助けるべきであるといった規範意識である，と説明している．

２）看護学生：本研究では，看護師国家試験受験資格を得るために，指定されたカリキュラムを学習中で，本校に籍を置く大学生のことを指す．

２　研究方法

１）看護学生に，箱井の29項目からなる援助規範意識尺度(表2参照)を用いての無記名質問紙法により調査を行った．

２）調査対象は，看護学生375名（全学生）を対象とした.

分析方法は，看護学生の「援助規範意識」の捉え方の様相を明らかにするために基本統計，因子分析，性別，学年による重回帰分析を実施した．箱井等の因子構造と看護学生の因子構造を比較した.

SPSS Statistics（Ver27）による分析を行い，有意水準は$p<0.05$とした.

３）研究機関は2021年9月～11月であった.

４）倫理的配慮

大学の倫理審査委員会の承認を得て，実施した．また，利益造反（COI）はありません.

Ⅲ　結果

１　基本統計について

本大学344名（男性39名,女性305名,有効回収率91.7％）を分析対象とした．（表１）

表１　学年・性別の内訳

n = 人数

性別／学年	1	2	3	4	未記入	合計
男性	14	11	5	9		39
女性	73	77	92	63		305
未記入					31	31
合計	87	88	9772	72	31	375

看護学生の29項目において性別，学年別の基本統計量は表２の通りである．

表２　看護学生の最大・最小値、学年・性別平均・標準偏差

番号	援助規範意識（箱井･高木により作成）[1]	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	学年／性別	1学年		2学年		3学年		4学年	
								平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
1	自分に好意を示してくれたからといって，自分も好意を示してお返しをする必要はない	375	1	5	3.11	1.029	男性	3.14	1.406	3.09	0.539	3.60	1.140	2.56	0.882
							女性	3.23	1.185	2.88	0.932	3.30	0.946	3.03	0.967
2	救う能力が自分に備わっていない時には，救う努力をしても無駄である	374	1	5	2.20	0.836	男性	2.36	1.336	2.73	0.786	2.20	0.837	2.11	0.928
							女性	2.05	0.848	2.05	0.759	2.29	0.764	2.25	0.740
3	人が困っている時には，自分がどんな状況にあろうとも，助けるべきである	373	1	5	3.54	0.881	男性	4.00	1.038	3.09	0.539	3.40	1.140	3.78	0.833
							女性	3.79	0.897	3.61	0.797	3.50	0.845	3.43	0.826
4	自分の利益よりも相手の利益を使先して，手助けすべきである	371	1	5	3.27	0.839	男性	3.71	1.267	3.00	0.632	2.60	0.548	3.33	0.500
							女性	3.37	0.741	3.32	0.802	3.16	0.860	3.26	0.828
5	人から何かを贈られたら，同じだけお返しをすべきである	371	1	5	3.88	0.918	男性	4.00	1.038	3.73	0.905	2.80	0.837	4.00	1.000
							女性	4.04	0.934	4.01	0.835	3.77	0.925	3.87	0.885
6	自己を犠牲にしてまでも，人を助ける必要はない	373	1	5	2.95	0.830	男性	2.79	0.893	2.91	0.539	3.20	0.447	1.89	0.601
							女性	2.85	0.883	2.77	0.742	3.08	0.855	3.08	0.685
7	過去において私を助けてくれた人には，一生感謝の念を持ち続けるべきである	374	1	5	3.89	0.854	男性	3.86	1.231	3.73	0.905	2.80	1.095	3.89	1.054
							女性	4.12	0.832	3.84	0.812	3.79	0.806	3.84	0.772
8	しいたげられている人を，まず救うべきだ	369	1	5	3.58	0.692	男性	4.00	0.784	3.27	0.467	3.40	0.548	3.44	0.527
							女性	3.78	0.716	3.46	0.774	3.59	0.579	3.49	0.622
9	人を助ける場合，相手からの感謝や返礼を期待してもよい	373	1	5	2.86	0.928	男性	3.07	1.207	2.73	0.786	2.40	0.548	1.56	0.726
							女性	2.79	0.903	2.91	0.920	2.95	0.856	2.85	0.903
10	恩人が困っている時には，自分に何があろうと助けるべきである	373	1	5	3.66	0.863	男性	3.79	0.699	3.64	0.924	3.40	1.140	4.22	0.833
							女性	3.67	0.964	3.57	0.818	3.77	0.800	3.65	0.832
11	人にかけた迷惑は，いかなる犠牲を払っても償うべきである	373	1	5	3.43	0.897	男性	3.86	0.770	3.64	0.924	2.40	0.548	3.00	0.866
							女性	3.56	0.986	3.56	0.881	3.35	0.831	3.44	0.764
12	不当な立場で苦しんでいる人は，少しでも助けるべきだ	372	1	5	3.93	0.687	男性	4.21	0.802	3.64	0.674	3.80	0.837	3.67	0.866
							女性	4.11	0.618	3.91	0.729	3.87	0.667	3.84	0.682
13	以前私を助けてくれた人には，特に親切にすべきである	374	2	5	3.86	0.755	男性	4.00	0.877	3.73	0.786	3.40	0.548	3.78	0.833
							女性	3.95	0.762	3.75	0.797	3.89	0.748	3.94	0.650
14	人の好意には甘えてもよい	374	1	5	3.72	0.801	男性	3.36	1.151	3.73	0.786	3.40	1.140	3.11	1.269
							女性	3.79	0.781	3.64	0.793	3.79	0.749	3.81	0.596
15	犯した罪を償わなくてもよい場合がある	373	1	5	2.37	0.917	男性	2.64	1.216	2.27	0.905	2.60	0.548	2.33	1.323
							女性	2.41	1.012	2.32	0.867	2.40	0.839	2.26	0.848
16	人が，私を助けるために何らかの損害を被っているなら，そのことに対し責任を持つべきである	371	1	5	3.67	0.760	男性	3.86	0.535	3.91	0.831	3.40	0.548	3.78	1.093
							女性	3.88	0.749	3.62	0.812	3.62	0.696	3.61	0.732
17	将来付き合うことのない人なら，困っていても助ける必要はない	374	1	5	2.35	0.862	男性	2.21	1.051	2.64	0.809	2.60	0.894	1.89	0.782
							女性	2.07	0.788	2.38	0.859	2.47	0.895	2.40	0.799
18	大勢の人が同じ状況で困っている時，まず以前私を助けてくれたことのある人を一番最初に助けるべきである	374	1	5	3.12	0.823	男性	3.23	0.832	3.18	0.874	2.40	0.548	2.56	0.726
							女性	3.03	0.781	3.05	0.826	3.30	0.848	3.06	0.780
19	困っている人に，自分の持ち物を与えることは当然のことである	372	1	5	3.25	0.831	男性	3.21	0.699	3.00	0.447	2.60	0.548	3.00	1.000
							女性	3.18	0.976	3.38	0.762	3.25	0.834	3.32	0.779
20	どんな場合でも，人に迷惑をかけてはいけない	373	1	5	3.39	0.982	男性	3.43	0.852	3.64	0.924	2.60	0.548	3.67	1.225
							女性	3.36	1.059	3.38	1.124	3.39	0.864	3.45	0.953
21	私を頼りにしている人には，親切であるべきだ	373	1	5	3.67	0.831	男性	3.57	0.756	3.64	0.505	2.60	0.548	3.75	0.886
							女性	3.81	0.923	3.64	0.872	3.70	0.795	3.56	0.781
22	自分が不利になるのなら，困っている人を助けなくともよい	375	1	5	2.72	0.818	男性	2.43	1.016	3.00	0.632	3.20	0.837	2.11	0.601
							女性	2.52	0.835	2.66	0.821	2.82	0.838	2.78	0.683
23	社会的に弱い立場の人には，皆で親切にすべきである	373	1	5	3.53	0.798	男性	3.71	0.726	3.36	0.809	3.00	0.707	3.89	0.928
							女性	3.58	0.927	3.51	0.853	3.52	0.656	3.60	0.799
24	社会の利益よりも，自分の利益を第一に考えるべきである	372	1	5	2.95	0.796	男性	2.93	0.917	3.09	0.701	3.40	0.548	2.33	1.000
							女性	2.86	0.822	2.97	0.816	3.02	0.816	2.86	0.669
25	見返りを期待した援助など，全く価値がない	371	1	5	2.90	0.914	男性	3.07	0.917	2.82	0.874	2.00	0.707	2.75	1.282
							女性	2.95	1.026	2.96	0.910	2.89	0.862	2.85	0.865
26	受けた恩は必ずしも返さなくてもよい	374	1	5	2.74	0.893	男性	2.86	1.027	2.73	0.647	3.00	0.707	2.78	1.302
							女性	2.59	1.012	2.66	0.821	2.78	0.862	2.78	0.832
27	自分より悪い境遇の人に何かを与えるのは当然のことである	374	1	5	3.16	0.780	男性	3.29	0.994	2.64	0.505	2.80	0.837	2.67	1.118
							女性	3.22	0.821	3.23	0.742	3.12	0.724	3.21	0.786
28	人は自分を助けてくれた人を傷つけるべきではない	374	1	5	3.91	0.773	男性	3.93	0.730	3.73	0.786	3.20	0.837	4.11	0.928
							女性	4.11	0.792	3.96	0.751	3.80	0.774	3.98	0.609
29	相手がお返しを期待していないのなら，わざわざお返しをする必要はない	373	1	5	2.79	0.879	男性	2.93	1.072	2.90	0.568	3.20	0.837	2.22	0.667
							女性	2.67	0.898	2.62	0.828	2.97	0.870	2.83	0.853
有効なケースの数(リストごと)		337													

２　因子分析・因子間相関について

因子分析・因子間相関の結果は表３・4のとおりである.

表3　因子回転後の因子負荷量

		第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
第１因子	過去において私を助けてくれた人には，一生感謝の念を持ち続けるべきである(7)	0.768	-0.012	0.041	-0.155	0.174
	以前私を助けてくれた人には，特に親切にすべきである(13)	0.734	-0.017	-0.161	0.139	-0.011
	恩人が困っている時には，自分に何があろうと助けるべきである(10)	0.65	0.011	0.261	-0.039	-0.033
	私を頼りにしている人には，親切であるべきだ(21)	0.462	0.049	0.06	0.12	0.007
第２因子	自分が不利になるのなら，困っている人を助けなくともよい(22)	0.055	0.7	-0.176	-0.031	-0.045
	将来付き合うことのない人なら，困っていても助ける必要はない(17)	-0.097	0.659	0.144	-0.127	-0.026
	相手がお返しを期待していないのなら，わざわざお返しをする必要はない(29)	-0.049	0.496	0.019	0.045	0.058
	自己を犠牲にしてまでも，人を助ける必要はない(6)	0.095	0.489	-0.371	0.049	-0.024
	社会の利益よりも，自分の利益を第一に考えるべきである(24)	0.198	0.455	-0.024	0.052	-0.146
	受けた恩は必ずしも返さなくてもよい(26)	-0.229	0.412	0.003	0.079	0.17
第３因子	人が困っている時には，自分がどんな状況にあろうとも，助けるべきである(3)	0.072	0.002	0.705	0.064	-0.022
	自分の利益よりも相手の利益を使先して，手助けすべきである(4)	0.034	-0.081	0.634	0.026	-0.052
第４因子	社会的に弱い立場の人には，皆で親切にすべきである(23)	-0.005	0.03	0.024	0.727	-0.076
	不当な立場で苦しんでいる人は，少しでも助けるべきだ(12)	0.147	-0.161	-0.009	0.577	-0.013
	自分より悪い境遇の人に何かを与えるのは当然のことである(27)	-0.056	0.127	0.127	0.461	0.243
第５因子	見返りを期待した援助など，全く価値がない(25)	0.129	0.194	0.091	0.029	0.548
	人を助ける場合，相手からの感謝や返礼を期待してもよい(9)	-0.042	0.277	0.197	0.028	-0.527

因子抽出法：主因子法　　(　)は箱井等の項目番号

回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

表４　因子間相関

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
第1因子	1.000	-0.272	0.397	0.595	-0.081
第2因子	-0.272	1.000	-0.398	-0.221	-0.018
第3因子	0.397	-0.398	1.000	0.373	0.225
第4因子	0.595	-0.221	0.373	1.000	0.101
第5因子	-0.081	-0.018	0.225	0.101	1.000

因子抽出法：主因子法
回転法：Kaiserの正規化を伴うプロマックス法

看護学生の因子構造をみるために，因子分析を行った結果，5因子が抽出された．（表3）さらに，因子間相関を見ると，第１因子と第4因子に中程度の相関があった．（r=0.595）（表4）

３　因子得点を従属変数とした重回帰分析

因子分析で得られた５因子の各因子得点を従属変数、学年，性別を独立変数として，重回帰分析を行った．結果，第３因子得点に対して、学年の偏回帰係数が、有意な負の値となった．（図１）

更に３因子の学年の変化を見るために，学年の差をグラフに第３因子得点の平均値を箱ひげ図で表した．（図2）学年が進むにつれて，因子得点の平均値は下がっていった．

モデルの要約

R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
0.136	0.018	0.012	0.841

分散分析

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
回帰	4.280	2	2.140	3.029	0.050
残差	227.496	322	0.707		
合計	231.777	324			

係数

	非標準化係数		標準化係数		有意
	B	標準誤差	ベータ	t 値	確率
（定数）	0.316	0.295		1.069	0.286
性別	-0.010	0.149	-0.004	-0.068	0.946
学年	-0.107	0.044	-0.135	-2.442	0.015

図１　因子得点による重回帰分析

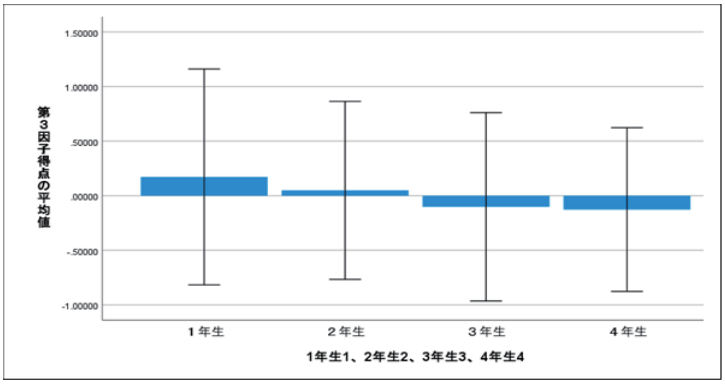


図2　第３因子の学年ごとの値

4　箱田の援助規範意識との比較

ここで看護学生の因子分析を実施し，どのような因子構造であるのか，そして箱田の因子構造がどのように変化したかについて比較した．（図3）

箱井の29項目は看護学生の因子構造では17項目に収束した．そのため，看護学生の援助規範意識の下位項目の内容が変容し，新たな援助規範意識が出現した．（図3）

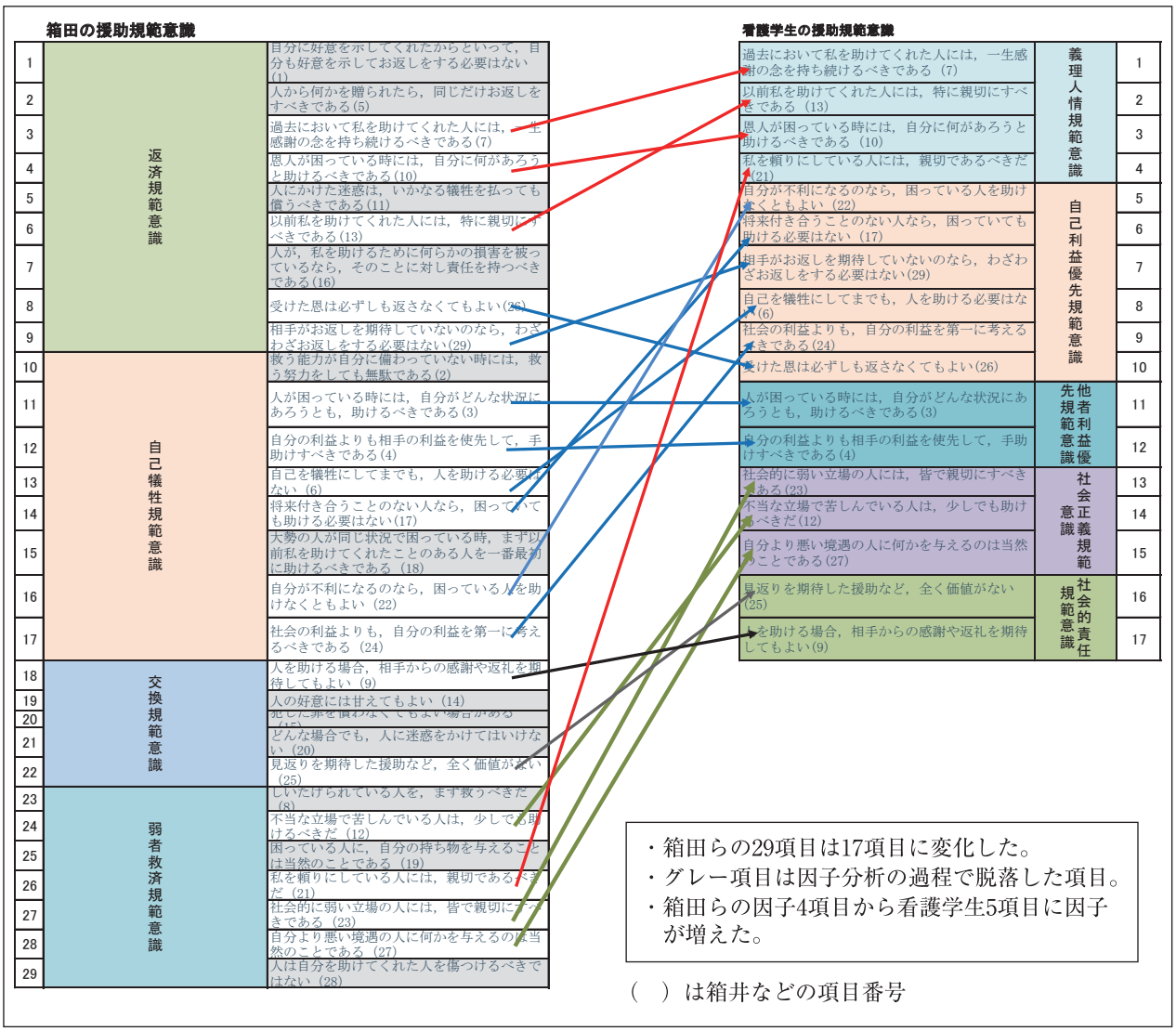


図3　箱田の援助規範意識との比較

Ⅳ　考察

1　本大学看護学生の援助規範意識の特徴

箱井の因子構造は４因子であったが，看護学生は５因子の構造であった．因子分析を行った結果，29項目から17項目に減少した．項目の共通性を鑑み，第1因子「義理人情遵守規範意識」，第2因子「自己利益優先規範意識」，第3因子「他者利益優先規範意識」，第４因子「社会正義規範意識」，第５因子「社会的責任規範意識」と命名した．（図３）

看護学生の因子構造の最初に上がってくる第１因子「義理人情遵守規範意識」の様相は「過去において私を助けてくれた人には，一生感謝の念を持ち続けるべきである」，「以前私を助けてくれた人には，特に親切にすべきである」，「恩人が困っている時には，自分に何があろうと助けるべきである」，「私を

頼りにしている人には，親切であるべきだ」とその内容が共通因子となり，看護学生の援助規範意識の内容を構成している．注目するのは，この第１因子「義理人情遵守規範意識」の構造は箱井の「返済規範意識」の下位項目より構成され，同時に「弱者救済規範意識」の下位項目からも構成されている．単純な「返済規範意識」より，より弱者となった人には必ず救済に似た気持ちで返済しようという社会正義に裏付けられた強力な援助意識を持っていることがうかがわれた．

また，第１因子「義理人情遵守規範意識」と第４因子「社会正義規範意識」には中程度の相関（r=0.595）があり（表４），この関連から，自己犠牲的な援助意識に支えられた積極的な社会的正義を推進する援助の姿勢も感じられた．弱い立場の人の場合は，彼らを護ろうとする社会正義の様子もうかがえ，この意識は看護学生の特徴であると言える．さらにそれを支えているのが第５因子「社会的責任規範意識」である．看護学生は，弱い人には寄り添い，義理や人情を重んじ，援助をしようという意識を持ち，それを支えているのが社会的正義と責任である，と本分析から言える．

２　本大学看護学生の援助規範意識の学年別の比較

各因子得点の重回帰分析の結果，第３因子得点に対して、学年の偏回帰係数が、有意な負の値となった．第３因子「他者利益優先規範意識」の内容である「人が困っている時には，自分がどんな状況にあろうとも，助けるべきである」「自分の利益よりも相手の利益を使先して，手助けすべきである」については，学年が上がっていくに従って得点が下がっていくことが分かった．図2からも明らかなように，入学後の得点が次第に学年とともに下がっていく．ここで考えられることは，高校卒業後，すぐ看護の大学に入学し，１年生となるが，自由な大学生活では次第に学年が上がるごとに，接する周囲の環境も拡大し，その中でも看護とは違った未来を目指す学生達も多く，またこの時期には，アルバイトや様々な人間関係も経験し，社会での仕組みも理解できるようになる．他者利益優先という援助規範意識が年齢・学年を重ねて行く毎に低下することは容易に推察された．

しかし，本大学の看護学生は対人援助職としては，自己犠牲的な援助意識を持っている反面，自己利益も決して忘れない自己保身の規範意識も持っている．このバランスがうまくいくように，今後は看護学生の成長を見守る必要があろう．

本研究は看護学生の援助規範意識を分析したのであるが，今後の大きな課題として，この援助規範意識が看護学生の特異的なものであるのか，あるいは年齢的な若い人が持つ考え方なのか，不明である．猪瀬[3]は「現代大学生は,自己を犠牲にしてまで援助を行おうとはせず，自分の利益を優先する傾向がうかがえる．これは，前述のように利己的意識がその概念の中心となっていることと一致している.」と述べ，本学の看護学生とは違った大学生の姿を報告している．

また，松井[4]は「援助の規範意識と年齢は，援助経験と直接的な因果関係をもっており，恩を大切に考え，人に積極的にかかわろうとする者ほど，また年齢が高い者ほど，　援助の経験が多かった.」さらに「恩を大切にする者は,特定の相手に対してだけではなく，一般的な他者にも恩を感じ,返礼を期待できない相手にも,援助の手をさしのべる傾向をもつと考えられる.」とその研究の中で述べている．このことから，第１因子である恩を感じた学生が，中程度の相関を持つ第４因子「社会正義規範意識」の姿勢を持つことも理解できる．

看護師にとっては，人間関係における援助技術が大変重要である職業である．その基盤となる援助規範意識がどの程度，本学以外の他の学生と相違があるのかも不明である．今後の課題となろう．また，今回は「援助規範意識」を問うただけであるので，重要なのはこの援助意識を行動に移す場合，判断の根拠は

どのようにしているのかは，まだ解明されていない．心では援助規範意識を持ってはいても，実行に移すとなれば，話は違ってくる．行動に移す時の要因は何なのか，そして学生は援助意識と行動との関係が，この研究から考えられた重要な課題である．

松井[4]は「情動的共感性という，対人行動全般に関わる性格特性は，具体的な援助場面では，“…をするべ きである” という規範意識として現われ，この意識が行動を規定していると考えられる．つまり，本研究の結果は，性格特性 (共感性)→規範意識→援助行動という因果関係を，明らかにしている」と述べている．さすれば，患者の感情を共有する看護師は，具体的な援助場面で，「…するべき」というような規範意識が現れることも推測できる．

佐藤[5]は，「高校福祉科の女子においては，高校入学以前の経験や環境にかかわらず，自己犠牲規範意識が高い傾向があり介護福祉関連職への適性の高さがうかがえた．」と述べている．人の世話をする対人援助職は入学の時期から，すでに自己犠牲規範意識が高いことが前提にあるであるなら．他学科との差異は明らかである．しかしこのような意識を持った学生が今後も自己犠牲規範意識を持続させることができるか，そして，援助規範意識が自分の行動にどの程度まで反映されるのかは，多くの要因が絡む．行動には本来の援助規範意識を内在させていることも推察される．今後の課題として，卒業後の看護師の変化と他領域，特に医療系ではない学生との比較することが，看護学生としての特異性を理解できる一助となることが考えられる．

Ⅴ　結論

本研究の結果，第３因子である「他者利益優先規範意識」は学年が進むにつれ，因子得点の平均値が有意に下がっていったことが判明した．看護学生は学年が進むにつれ，実に多くの情報と得て成長し，入学初年次に感じた他者の利益を優先するという援助規範意識は，他の援助規範意識である社会正義や責任についても考慮する必要があると考えていることが今回の調査より明らかになった．今後は学生の特徴を尊重しながら，バランスの良い援助規範意識をささえる必要がある．

引用文献

1）堀 洋道(監修)/吉田 富二雄(編)（2001）心理測定尺度集【2】人間と社会のつながりをとらえる：対人関係・価値観，サイエンス社　183-188

2）柴田和恵，高橋ゆかり，鹿村眞理子（2007）看護学生の援助規範意識と職業的アイデンティティとの関連，一臨地実習前後の比較一，天使大学紀要, 2007，Vol 7 ,85 – 92

3）猪田亜希子他（2008）「援助 規範意識の測定法 に関する研究(1)」，生活科学研究，Vol30，51 – 58

4）松井 豊（1981）援助行動の構造分析,The Japanese Journal of Psychology 1981, Vol. 52, No.4, 226-232

5）佐藤大輔（2012）「高校福祉科進学動機と介護・援助に関する意識調査」，第59巻第 5 号「厚生の指標」，7-13

2023年1月16日　受理

了徳寺大学研究紀要第17号